

教養科目		社会科学部・保健医療福祉学部・ 心理学部・アニメーション文化学部			2022年度 カリキュラムマップ									
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)														
※学科のディプロマポリシーを記載														
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。											
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。											
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。											
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。											
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。											
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。											
信じられる力	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を發揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。											
◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)														
授業科目	◆は必修	単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎		
	◆ SDGs概論	1	1	春	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何が出来るか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎			
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎			
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎		
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎		
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎		
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動に必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎		
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春	「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	高校までに習得したコンピューターリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△				
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○	
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○	
外国語	◆ 英語基礎 I	2	1	春	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 I」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎				
	◆ 英語基礎 II	2	1	秋	「英語基礎 I」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 II」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎				
	◆ アクティブ英語 I	2	1	春	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 I」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎			
	アクティブ英語 II	2	1	秋	「アクティブ英語 I」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 II」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎			
	レベルアップ英語 I	2	2	春	海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎		
	レベルアップ英語 II	2	2	秋	「レベルアップ英語 I」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎		
	中国語と中国文化 I	2	1	春	中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎		
中国語と中国文化 II	2	1	秋	「中国語 I」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	フランス語とフランス文化 I	2	1	春	フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	フランス語とフランス文化 II	2	1	秋	「フランス語 I」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 I	2	1	春	ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 II	2	1	秋	「ドイツ語 I」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	◇ 日本語 I A(文法)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(読解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(聴解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(文法)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
日本語(留学生専用科目)	◇ 日本語 I B(読解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(聴解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語 II A(文法)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
社会の理解	日本国憲法	2	1	春または秋	日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○				
	経済学	2	1	春または秋	私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎					
	社会学	2	1	春または秋	社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△			
	哲学	2	1	春または秋	哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△				
	心理学	2	1	春または秋	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△	
	多様性の理解	2	1	春または秋	異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
基礎教育科目	人間形成	文章力の基礎	2	1	春または秋	大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○			
		美術の見方	2	1	春または秋	自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語るができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○			
		生涯スポーツ論	2	1	春または秋	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通じたスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○			
		生涯スポーツ実習	1	1	春または秋	様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎			
自然科学		数的理解	2	1	春または秋	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△	
		化学	2	1	春または秋	基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎				
		生物学	2	1	春または秋	生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△		
		環境科学	2	1	春または秋	現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応することが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△	

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学部名

保健医療福祉学部

学科名

看護学科

2022年度 カリキュラムマップ

看護学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

※学科のディプロマポリシーを記載

自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	必要な基礎的知識 基礎となる理論を連動した実践行動
	DP2	情報の活用	科学的思考に基づいた応用能力 健康問題を分析し、改善するための計画立案・実践・評価の理解
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	高い倫理観と責任感 生涯にわたって研鑽し続ける基本的姿勢と能力
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	チーム医療や多職種との連携への行動 チーム医療実践におけるキーパーソンの行動
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	国際的な視点を持ち、様々な国の医療や看護への理解 地域志向性の理解
	DP6	課題解決力	的確なニーズを把握 適切な対応をするための科学的思考力
信じる力を	DP7	自己効力感	主体的な解決を促す指導能力 地域における様々な場での看護を思考
	DP8	課題解決への看護実践力	適切な対応をするための科学的思考力 看護を計画的に実践し問題解決する思考

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPIに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPIに少し関わる科目(30%)

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
人体の構造と機能	◆ 解剖学Ⅰ	1	1	前	授業の概要: 人体解剖学 解剖学は正常な人体の形態と構造を研究する学問であり、大きく分類すると解剖学、組織学、形態学などである。看護学生の理解と学習意欲を高めるため視聴覚機器を利用しながら講義をすすめていく。 到達目標: 分子細胞学、組織学、発生学、骨格系、筋系、脈管系について理解を深める。	◎								
	◆ 解剖学Ⅱ	1	1	前	授業の概要: 人体解剖学 人体は一個の受精卵から出発し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学はその人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合せて各専門科目を学ぶための基礎とする。 到達目標: 消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系について理解を深める。	◎								
	◆ 生理学Ⅰ	1	1	前	授業の概要: 生体の機能を学ぶ。人体生理学は、身体の各臓器の働きを知るとともに、身体全体としての統合的な調節と適応の機序を明らかにする学問である。臨床医学の分野で関係の深い血液循環、呼吸、栄養の消化と吸収について講義する。 到達目標: 講義は解剖学と平行して進行するので、適宜解剖学的事項とあわせ病態との関連性を理解することである。	◎								
	◆ 生理学Ⅱ	1	1	前	授業の概要: 生体の機能を学ぶ。生理学Ⅰに引き続いて、臨床医学の分野で関係の深い代謝、排泄、内分泌について講義していく。 到達目標: 血液循環・体液の調節・内臓機能の調節・筋収縮・情報の受容と処理・生体防御について理解する。	◎								
	◆ 生化学	2	1	後	授業の概要: 「生体物質の基本的構造と機能及び物質の変化とそれに起因する諸現象について」をテーマとする。 到達目標: 生命の根源についてDNAの複製・転写・翻訳などの分子生物レベルで理解し、人体を構成する成分、生命活動の成り立ち、仕組み等に関して習得することができる。	◎								
	◆ 栄養学	2	1	後	授業の概要: 健康と栄養との関わりについて理解し、食生活のあり方について考えることをテーマとする。 到達目標: ① 栄養素の体内での働きについて理解する。 ② 健康の保持・増進のために、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかを理解する。 ③ 疾病と栄養の関係について学び、疾病の予防・治療・増悪化防止のための栄養食事療法について理解する。	◎								
	◆ 臨床薬理学	2	2	前	授業の概要: 「薬物の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について」をテーマとする。 到達目標: 薬物に対する生体の反応についての基礎的知識を習得することができる。薬の作用と有害作用(副作用)、循環器系に作用する薬、抗菌薬、抗がん薬、抗精神病薬等の作用機序、臨床応用、有害作用等について習得することができる。	◎								
◆ 臨床微生物学	1	1	前	授業の概要: 「各種感染症における病原微生物及び感染予防に関する知識について」をテーマとする。 到達目標: 広範なる微生物の知識を理解し、さらに、各種感染症における病原微生物及び感染予防に関する知識、滅菌・消毒、微生物学的検査、新興感染症、感染症法の分類と疾患等の専門的知識を習得することができる。	◎									

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	◆ 病理学	2	2	前	授業の概要: 病理学は基礎医学の総まとめであり臨床医学に入門するために必要な学問である。これまで学習した内容を総合して、病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が辿る最終的な結末(転帰)といった病気の本態に関する基礎を学ぶ。医療に携わる者にとって、どんな職種であれ必要不可欠な学問である。 到達目標: 本講義では病理学的な考え方を身につけ、臨床医学をさらに理解できる	◎								
	◆ 病態生理 I	2	2	前	授業の概要: 広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。 到達目標: 内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得する	◎								
	◆ 病態生理 II	2	2	後	授業の概要: 循環器疾患・脳神経系疾患における疾病の原因と疾病による形態的、機能的変化について学習する。 到達目標: 内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得する	◎								
	◆ 病態生理 III	2	2	後	授業の概要: 広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。 到達目標: 内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得する	◎								
	◆ 病態生理 IV	1	2	後	授業の概要: 将来看護師として臨床に出た時、どのような現場で働くことになっても廃用症候群の予防法等の基礎知識は必要とされる。 到達目標: より広い視野を持った看護師になるため、リハビリテーションに関わる基礎知識を身につける	◎								
健康支援と社会保障制度	◆◇ 公衆衛生学 I (基礎)	1	1	前	授業の概要: 人を取り巻く社会・文化的、物理・化学・生物学的環境が人のライフスタイル・行動や健康に与える影響と仕組み、それをコントロールするため設けられている公衆衛生を担う機関やその働きの基礎を学ぶ。 到達目標: 個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ(共同体)を構成する人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程に関わる主要な要因について学び、健康課題を評価する基本的な能力を養う。			◎						
	◇ 公衆衛生学 II (応用)	1	1	後	授業の概要: 様々なコミュニティ(地域、職場など)での多様な健康課題とそれへの解決・改善策の例を通して、課題のアセスメントと対策の立案評価能力を養う。 到達目標: コミュニティ(共同体)を構成する人々の心身の健康に関わる主要な要因についての理解を元に、顕在・潜在している地域の健康課題を明確にし、解決・改善策を計画・立案・実施・評価する能力を養う。	◎								
	◆◇ 疫学	2	2	前	授業の概要: 症例対応の演習を通して集団発生、サーベイランス、検査など記述疫学の基本を学ぶ。年齢という代表的な交絡の調整の演習により因果関係を吟味する姿勢とEBMの意義を学ぶ。 到達目標: 公衆衛生看護の基盤となる疫学の概念と方法また、疫学調査・分析、活用方法について基本的な理解を得る。	◎	○							
	◆◇ 健康支援と社会保障制度	2	2	前	授業の概要: 高齢化の進展や社会情勢の変化から、様々な制度改革や新たな法の整備がなされている。人の生命に関わる看護職は保健医療福祉の各法を準拠した実践活動が希求されることから看護職として理解している必要がある保健・医療・福祉に関する法律や施策の基礎的知識を学ぶ。 到達目標: 保健・医療・福祉に関する法律について、看護師国家試験の出題レベルを到達目標とする			◎						
	◆◇ 保健統計学	2	2	後	授業の概要: 演習を通じて代表地等の量的データの要約、グラフ等質的データの要約方法を学ぶ。また、Excel等を用いた効率的で簡便な集計や計算方法を演習する。 到達目標: 公衆衛生看護の基盤となる統計学の基礎、情報処理技術、統計情報と活用方法について演習を通して基本的な理解を得る。	◎								
◆ 看護学概論	1	1	前	授業の概要: 看護を志す初学者として、看護の核となる概念である人間、健康、環境について基本的捉えかたを学び、看護の対象や看護の役割について理解を深める。 到達目標: 1. 看護の機能と役割、看護の構成要素を理解できる。 2. 看護の対象とある人とその生活を理解できる。 3. 看護活動を実践するために必要な法律について理解できる	◎									

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
◆ 看護倫理		1	1	後	授業の概要:看護の対象となる人間の権利について学習し、対象者の権利を尊重するためにはどのような考え方が必要であるかを学ぶ。事例検討・ディスカッションを通して、自身の考えを明確にするとともに、メンバーの考えをきく姿勢を持つことができる。 到達目標:1. 生命倫理の原則を理解できる。 2. 看護実践において必要な倫理的概念を理解できる。 3. 専門職としての倫理的行動の基準が理解でき、看護職としての責任感を持つことができる。	◎		○	○	○				
◆ 看護理論		1	1	前	授業の概要:看護の事象について描いている看護理論を理解することで、臨床で看護を実践する場合に看護理論が活用可能となる。それぞれの理論で用いられている言葉が何を説明しているのか、背景には何があるのか、広く考えることで看護の奥深さについて体感できる。 到達目標:1. 看護理論とは何か説明できる。 2. ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレムなどの看護理論の概略を説明できる。 3. 看護理論を実践に活かすために、活用方法を理解できる。	○		◎	○					
◆ 看護過程論		1	1	後	授業の概要:看護過程を展開する技術である情報収集・分析、看護診断・計画の立案、評価について学ぶ。看護の日常的で実際的な実践の形態は、問題解決型思考にもとづく看護過程という考え方によって理解することが有用である。そして、そしてその基本的な原理は、病院や各種施設で実施される看護から、在宅看護や地域看護まで、全ての看護実践の場で活用可能である。 到達目標:1. 看護過程の意義・目的を理解できる。 2. 看護過程に必要な問題解決型思考について理解できる。 3. 情報収集・分析、看護診断・計画の立案、評価について理解できる。	◎	○	◎				○		
◆ 基礎ゼミナールⅠ(スタディスキル)		1	1	前	授業の概要:大学生として主体的学習活動に不可欠な基本的スタディスキルを身につけ、さらに看護学を履修する学修内容を理解する。グループワークを通じて、コミュニケーション・チームワーク能力を培う。 到達目標: 1. 大学における看護学の学び方について理解する。 2. 大学で学ぶ基本スタディスキル(読む・書く・聞く・伝えるスキル)を習得する。 3. グループ演習の意見交換を通じ、自分の考えを伝え、相手の考えを聞くコミュニケーションスキルを習得する	◎	◎							
◆ 基礎ゼミナールⅡ(コミュニケーションスキル)		1	1	後	授業の概要:大学生としての主体的学習活動に不可欠な基本的スタディスキルを身につけ、さらに看護学を履修する学修内容を理解する。グループワークを通じコミュニケーション、チームワーク能力、論理的思考力を培う。 到達目標: 1. 大学における看護学の学び方について理解する。 2. 大学で学ぶ基本スタディスキル(読む・書く・聞く・伝えるスキル)を習得する。 3. テーマに関する調査内容について、グループ演習での意見交換を通じてメンバー間の相互理解と検討を重ね問題、課題について論理的にまとめ発表できる。	◎								
◆ 看護技術概論		1	1	前	授業の概要:看護技術を実施するにあたり、基盤となる要素を理解しなければならない。それらの要素について講義する。また、看護技術を実施する上で必要となる基本的な看護技術の一つである「コミュニケーション」や「安全・安楽」について学習し、看護技術習得のための動機づけとする。 到達目標:1. 看護技術の構成要素を理解する 2. 看護実践に必要な基本技術を理解する。 3. コミュニケーションの具体的方法を説明できる。 4. 感染予防の基本である手指衛生が実践できる。	◎								
◆ 生活援助技術Ⅰ(環境・活動・休息の援助)		1	1	前	授業の概要:健康水準が低下した人々に対して、生活の質を下げないように援助する具体的方法について教授する。 看護者の専門的技術は、専門的な知識や行為を支える理論に基づいて、対象者の安全・安楽・自立・効果・経済性・倫理性を目指した目的意識的な行為である。そしてその看護技術には看護観と技術の習得レベルが反映される。本科目では、生活援助技術に属する環境整備・体位・体位の保持・移動・移送についての具体的な援助技術を学ぶ。 到達目標:1. 環境を多角的にとらえ、患者の安全・安楽への配慮を具体的な行為として実践できる。 (自立度に応じた病室・病床の整備・ベッドメイキング) 2. ボディメカニクスの基本原則を理解し、対象者・看護者双方が安楽・安全な体位で、効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を習得する。 (安楽な体位を保持する技術・体位と身体に及ぼす影響の理解) 3. 対象に応じた方法の選択と実施ができる。 (体位変換および立位と歩行の援助・車椅子やストレッチャーによる移動・移送)	◎		○						
◆ 生活援助技術Ⅱ(清潔・衣生活の援助)		1	1	前	授業の概要:健康水準が低下した人々に対して、生活の質を下げないように援助する具体的方法について教授する。 看護者の専門的技術は、専門的な知識や行為を支える理論に基づいて、対象者の安全・安楽・自立・効果・経済性・倫理性を目指した目的意識的な行為である。そしてその看護技術には看護観と技術の習得レベルが反映される。本科目では、生活援助技術に属する清潔・衣生活についての具体的な援助技術を学ぶ。 到達目標:1. 衣生活を整える必要性を理解できる。 2. 清潔援助の効果と全身への影響を考え患者の安全・安楽への配慮を具体的な行為として実践できる。 3. 対象に応じた方法の選択と実施ができる。 (清拭、足浴、部分浴、洗髪、口腔ケア)	◎	○							

基礎看護学

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
◆ 生活援助技術Ⅲ(食事・排泄の援助)		1	1	後	授業の概要:人の健康問題を解決に導くために、看護の基本技術を適確に実施する能力が必要である。また、各基本技術を看護行為として実践するためには、対象者への深い理解と社会的責任に立脚した判断が必要となることを理解し、食事の援助、排泄の援助について学ぶ。 到達目標:個別の患者に対して基本技術を正しく適応するために必要な内容を習得することができる。そして、対象者に適切な援助を提供できる基礎看護技術(食事の援助・排泄の援助・感染予防・創傷の管理)を習得できる。	◎	○							
◆ ヘルスアセスメント		1	1	後	授業の概要:バイタルサインの観察およびフジカルアセスメント技術を中心に学ぶ。看護の対象のかかえる身体問題はさまざまである。生命の危機に直面して苦しんでいる場合もあれば、慢性疾患がうまく管理できない場合や回復後に後遺症で苦しむ場合、治療の副作用で悩む場合もある。どのような場合であっても、看護師として患者の状態を観察し、必要な援助を提供しなければならない。そのために、バイタルサインの観察とフジカルアセスメント技術は不可欠なものである。 到達目標:1. 看護の機能と役割、看護の構成要素を理解できる。 2. 看護の対象とある人とその生活を理解できる。 3. 看護活動を実践するために必要な法律について理解できる	◎	○							
◆ 治療処置援助技術		1	2	前	授業の概要:治療・処置における看護援助技術を中心に、各種注射法、静脈血採血などについて学ぶ。これらは、医学的検査や治療の際、それらに付随して発生する対象者の苦痛や不安をできるだけ軽減しつつ、一方では検査の目的や治療の効果が最大限に達成されるように、その過程を支援する必要がある。また、技術実施の過程における危険性の認識とリスクマネジメントを意識し、対象者の安全・安楽に十分配慮して行動する能力等が必要である。 到達目標:1. 適切な与薬方法について説明できる。 2. 治療・処置の援助における看護師の役割について説明できる。 3. 正しい技術で安全に筋肉注射をモデル人形に実施できる。	◎	○							
◆ 看護過程演習		1	2	後	授業の概要:看護過程を展開する技術である情報収集・分析、看護診断・計画、評価について学び、基礎看護学実習において、看護を実践する能力の習得を目指す。看護の日常的で実際的な実践の形態は、問題解決型思考にもとづく看護過程という考え方によって理解することが有用である。そして、その基本的な考え方は、病院や各種施設で実施される看護から、在宅看護や地域看護まで、全ての看護実践の場で活用可能となる。 到達目標:1. 事例のアセスメント、看護上の問題、看護計画を記述することができる。 2. 看護実践にもとづく評価について説明できる。	◎	○							
◆ ◇ 地域看護学概論		1	1	前	授業の概要:テーマ:地域看護の理念・目的、対象、活動方法の特性について基本的な理解を得る。 到達目標:地域看護学の理念や目的を知り、地域看護活動の場(行政・産業・学校・在宅)において、身体・心・生活・環境の4つをマネジメントすることにより人間の治癒力・健康力を高める看護活動の特性が理解できる。さらに、健康問題について、個人・家族・集団・組織・地域を対象に展開する看護活動の根拠や特性が理解できる。	◎	◎							
◆ ◇ 地域看護学演習		2	2	前	授業の概要:地域の健康課題に気づき、介護予防事業での在宅高齢者への支援、健康教育などによる地域貢献から総合的な看護の視野と感性を培う。 到達目標:成人・老年・在宅・地域看護など多領域の講義や演習を通して得た基礎的な知識・態度を統合する力を身につける。	◎								
◆ 在宅看護学概論		1	2	前	授業の概要:在宅看護の目的や特徴、法令・制度について学ぶことにより、地域におけるケアシステムを理解し、在宅で求められる看護師の役割と機能について考える。 到達目標: 1. 疾病や障害を持ちながら在宅で療養する人とその家族を理解できる。 2. 在宅看護の仕組みについて理解できる。 3. 在宅看護に関連する法制度について理解できる。 4. 看護師に求められる役割と機能について考えることができる。	○					◎			
◆ 在宅看護学Ⅰ(在宅での療養生活)		1	3	前	授業の概要:在宅で求められる在宅看護技術・在宅医療技術を学び、その具体的方法について考えることにより在宅で多くみられるケースについての理解を深める。 到達目標: 1. 在宅で求められる在宅看護技術・在宅医療技術について理解できる。 2. 在宅療養者の特性をふまえた援助について考えることができる。	◎		◎	○					
◆ 在宅看護学Ⅱ(在宅療養を支える看護)		1	3	前	授業の概要:在宅療養者の特徴、主な健康障害、看護援助の実際、家族支援の方法、社会資源の活用方法、他職種との連携と協働について学ぶ。ペーパーペイシエントでの看護過程の展開を行い、在宅で多くみられるケースについての理解を深める。 到達目標: 1. 生活を支える看護活動や社会資源の活用方法について理解できる。 2. 在宅看護の特性を踏まえた看護過程の展開方法を理解できる。 3. 在宅ケアシステムにおける看護職の役割について理解できる。	◎	○							

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
◆ 成人看護学概論		1	2	前	授業の概要:ライフサイクルにおける成人期の特徴や発達課題、成人を取り巻く環境や生活習慣がもたらす健康問題の特徴、成人看護の特徴と役割について学修する。成人期の疾病の予防、健康の保持・増進、健康レベルに応じた成人への看護アプローチと理論の活用について学修する。また、学修を通して自己の健康について関心を深めるとともに、看護実践における看護職者の役割について考察する。 到達目標:1. ライフサイクルからみた成人の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題を説明できる。2. 成人を取り巻く環境や就労およびライフスタイルと健康問題の関連性を説明できる。3. 成人への基本的な看護アプローチについて説明できる。4. 成人の健康レベルに応じた看護を、理論を活用して説明できる。5. 自身や家族の健康問題について関心を深める。6. 看護者の倫理綱領と成人看護の実践との関連について考察を深める	◎	◎		○						
◆ 成人看護学Ⅰ(慢性期看護)		1	2	前	授業の概要:慢性的な健康障害をもつ成人期の患者の看護を取り上げる。 1)健康障害をきたす各機能の解剖生理及び病態の理解を深め、看護援助について理解する。 2)疾患及び治療が身体・心理・社会的側面に及ぼす影響について理解する。 3)生活の再構築のための看護援助について理解する。 4)QOL向上を目指した継続看護における看護の役割について理解する。 到達目標:1)糖代謝障害のある患者の特徴や病態を理解し、必要な看護援助について理解できる。 2)肝機能障害のある患者の特徴や病態を理解し、必要な看護援助について理解できる。 3)腎機能障害のある患者の特徴や病態を理解し、必要な看護援助について理解できる。 4)運動機能障害のある患者の特徴や病態を理解し、必要な看護援助について理解できる。 5)神経筋障害のある患者の特徴や病態を理解し、必要な看護援助について理解できる。 6)感覚器機能障害のある患者の特徴や病態を理解し、必要な看護援助について理解できる。 7)血液・造血機能障害のある患者の特徴や病態を理解し、必要な看護援助について理解できる。	◎		◎	○						
◆ 成人看護学Ⅱ(急性期看護)		1	2	後	授業の概要:成人看護学概論で学んだ成人の対象理解を踏まえ、生命維持をつかさどる呼吸、循環、の血管に機能障害がある患者とその家族を身体的・心理的・社会的側面から理解する。そして、生命維持・健康回復へ向けての基本的看護を学修する。さらに、入院期間の短縮に伴う医療の地域連携・退院支援・退院調整における看護についても学修する。 到達目標:生命維持をつかさどる呼吸、循環、脳血管機能障害のある患者とその家族の身体的・心理的・社会的側面から特徴を理解する。そして、看護の目的と機能を理解し、看護上の問題に基づいて、生命維持・健康回復へ向けての基本的看護が理解できる	◎	○								
◆ 成人看護学Ⅲ(がん看護)		1	3	前	授業の概要:がんに罹患した対象者とその家族の心のケアや症状マネジメント、日常生活の援助や特殊な治療を受けるために必要な患者教育とサポート及びがん看護に関する最新の知識と技術について学ぶ。 到達目標: 1. がんの疫学と社会情勢について理解する 2. がん治療におけるチーム医療の役割について理解する 3. がん患者とその家族の心のケアやニーズに応じたコミュニケーション方法を修得する 4. がんの多様な症状に向けた看護技術について説明できる	◎	○								
◆ 成人看護学Ⅳ(周手術期看護)		1	3	前	授業の概要:健康レベルと治癒過程、手術侵襲からの回復プロセスを理解することができる。 到達目標: 周手術期・回復期にある成人・老年期の特徴、病態生理、機能障害、治療、心理状況および社会的変化を理解し、看護につなげることができる。	◎	○								
◆ 成人看護学Ⅴ(看護過程及び治療に伴う看護技術)		1	3	前	授業の概要:成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱに連動する科目であり、周手術期および慢性期にある患者の看護に焦点を当て、必要な基本的援助技術、看護展開について講義・演習を通して学ぶ。 1)周手術期および慢性期にある患者の事例を用いて、看護過程の展開をグループ学習および発表により理解を深める。 2)成人期の看護における主要な看護技術を演習し、技術を習得する。 到達目標:1)周手術期にある患者の事例による看護過程の展開ができる。 2)慢性期にある患者の事例による看護展開の展開ができる。 3)成人期の患者に実施する主要な看護技術が習得できる。	◎	○								
◆ 老年看護学概論		2	2	前	授業の概要:高齢者を一人の生活者として捉え、多面的・総合的に理解を深める。また、高齢者の社会的な現状を理解する。 到達目標:1.高齢者を多面的に捉えるために、身体的、精神的、社会的な老いのプロセスが理解できる。2.高齢者とその家族の現状を理解し、現代的な課題を理解できる。3.高齢者へのエイジズムと、倫理的な課題を理解できる。4.人を生活者として捉え、多面的・総合的に理解を深める。5.日本と世界の高齢化の現状と、日本の高齢者の課題が理解できる。6.日本の高齢者施策が理解できる。7.高齢者の健康課題が理解できる。	◎	○				○				

専門分野

成人看護学

老年看護学

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
護学	◆ 老年看護学(援助論)	2	3	前	授業の概要:高齢者の持つ力を洞察し、広い視野から高齢者を理解でき、個人的な状況に合った、高齢者の援助について学ぶ。 到達目標:1. 高齢者の健康障害が加齢によって引き起こされることや、その経過の特徴について理解できる。 2. 高齢者に特有な症候とその看護、高齢者に多い疾患と看護について理解できる。 3. 障害を持つ高齢者が日常生活に対応できるよう、高齢者とその家族に応じた看護活動について理解できる。	◎		◎	○					
小児看護学	◆ 小児看護学概論	1	2	前	講義概要:子どもは絶えず、成長・発達し続けており、その発達段階における特徴を知ると共に、子どもに対する見方・考え方を深め、小児看護の礎となる知識を学習する。 到達目標: 1. 現代の子どもと家族の概況や倫理的視点から、小児看護の役割や課題について理解できる。 2. 小児各期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、養育や看護のあり方を理解できる。 3. 児童福祉や母子保健の変遷を知ると共に、子どもと家族を取り巻く社会の状況とそれらに対する施策について理解できる。 4. 子どもに対する見方、考え方を深め、小児看護学の意義を理解できる。	◎		◎	○					
	◆ 小児看護学 I (発達生理の理解)	1	2	後	講義概要:子どもの特徴である成長と発達について医学的視点からとらえ、新生児期の小児疾患の特異性ならびに小児看護の特殊性について学習する。また、子どもの事故・外傷について、その予防や救急処置について学ぶ。 到達目標: 1. 胎児期における子どもの成長・発達と、この時期の疾患の特徴(原因・誘因、病態生理、症状経過、治療、検査、予後)を理解する。2. 幼児期における子どもの成長・発達と、この時期の疾患の特徴(原因・誘因、病態生理、症状経過、治療、検査、予後)を理解する。3. 乳幼児期の成長・発達に必要な栄養について理解する。4. 子どもの事故の特徴と発達段階に応じた事故防止について考え、救急処置の基本を理解する。	◎								
	◆ 小児看護学 II (疾病の理解)	1	3	前	講義概要:子どもの特徴である成長と発達について医学的視点からとらえ、身体系統別ないしは病態別に、小児疾患の特異性ならびに小児看護の特殊性について学習する。 到達目標: 1. 身体系統別ないしは病態別に、子どもの疾患の特徴(病態、症状、診断、治療、検査、予後)と看護について理解する。 2. 発達障害と社会生活の支援について理解する。 3. 難病と社会生活の支援について理解する。	◎								
	◆ 小児看護学 III (援助論)	1	3	前	講義概要:社会の変化や医療・看護の発展に伴って、小児看護の役割も大きく変化してきている。それらを考慮しつつ、病気や障害が子どもと家族に与える影響、経過別看護の特徴や小児の特性を踏まえた症状の捉え方、検査や処置を受ける子どもの看護援助技術、外来や病棟、在宅等における看護の役割について学ぶ。 到達目標: 1. 病気や障害をもつ子どもの身体的・精神的・社会的特徴や家族への影響と生活・療養するための看護について理解できる。 2. 入院・外来・在宅などの子どもや家族を取り巻く環境や生活の場、災害といった状況に特徴づけられる看護援助について理解できる。3. 子どもの基本特性を捉えながらの症状アセスメントと看護援助について理解できる。4. 検査や処置を受ける子どもの看護援助について理解できる。	◎	○							
	◆ 母性看護学概論	1	2	前	授業の概要:母性とは何か、女性および母性のライフサイクルを通じた全体像を把握し、母性への看護活動を展開するための基礎的知識を習得することを目的とする。 到達目標: 1. ライフステージに応じた母性各期の特徴と健康上の問題点について理解することができる。 2. リプロダクティブヘルス/ライツの考え方について理解することができる。 3. 母性に関する保健統計と政策について理解することができる。	◎	○							

授業科目		◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
母性看護学	◆ 母性看護学 I (母児関係論)		1	2	前	授業の概要: 母と子、および親と子の関係について、どのような考え方があるのかを現存する理論を基にして理解することを目的とする。 到達目標: 1. 母児関係の始まりについて理解することができる。 2. 母と子のきずなの形成について理解することができる。 3. Reva Rubinの母性論より、母性の主観的体験について理解することができる。 4. 愛着とは何か、Bowlbyの愛着行動から理解することができる。	◎		◎	○						
	◆ 母性看護学 II (援助論)		2	3	前	授業の概要: 妊娠期・分娩期・新生児期・産褥期の正常・異常について理解することができる。 到達目標: 1. 妊産婦の身体的・心理的・社会特徴を理解できる。 2. 妊産婦の身体的・心理的・社会特徴をふまえて、対象にあった援助を考えることができる。 3. 新生児の生理的変を理解し、健康な発達への援助を理解できる。 4. 妊婦・産婦・新生児・褥婦のハイリスクや異常時を理解し、必要な援助を理解できる。	◎	○								
精神看護学	◆ 精神看護学概論		2	2	前	授業の概要: 本科目は精神医学の概念およびその歴史的背景をふまえて、人間の精神(こころ)の健康に関するメカニズムを探究し、その複雑な構造と機能の理解を基盤に、精神障害の発症を予防し、また精神障害者の人権を尊重しながら社会復帰と自立の支援、再発予防を図るための援助活動についての基礎知識を学習する。 到達目標: 1. 心の健康、発達、はたらき、しくみ、発達、危機について理解できる。 2. 精神と身体、家族、集団、社会のダイナミクスについて理解できる。 3. 精神保健医療福祉の歴史、法律及び制度について理解できる。 4. 心を病むことについて幅広く理解し、精神看護を理解できる。	◎		◎							
	◆ 精神看護学 I (疾病の理解)		1	2	後	授業の概要: 精神科看護に関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、接し方や看護の方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要です。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにすると同時に、評価にも反映します。 到達目標: 1. 精神医学の基礎的事項・総論的事項を理解できる。 2. 代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解できる。 3. 精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学べる。 4. 精神医学の歴史的な背景を理解できる。 5. 精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。	◎									
	◆ 精神看護学 II (援助論)		1	3	前	授業の概要: 精神疾患・精神障害の意味を理解する。また今後の精神医療・看護の課題について考え、精神看護の機能と役割について学ぶ。心の健康の保持増進について考えるとともに、心の障害について学ぶ。心の障害をもつ人との間に援助的な対人関係を築き、精神障害者の人権尊重・ノーマライゼーションの理念に基づく看護援助を学ぶ。 到達目標: 1. 自己理解を深める方法や人間関係を深める方法を理解できる。 2. セルフケア理論を活用しながらアセスメント方法を理解できる。 3. 代表的な疾患や精神状態についての治療や看護を理解できる。 4. 地域で生活していくための精神保健医療福祉の連携、看護の役割について理解できる。	◎	◎	○							
	◆ 看護管理論	◇	1	4	前	授業の概要: 看護を取り巻く社会背景、医療環境の変化、看護管理の概念に関する知識を深め、安全で質の高い医療と看護を提供するためのシステムについて理解を深める。看護の対象となる人々に良質な看護を提供するための組織や看護に必要なマネジメントを考える 到達目標: 1. 看護管理の基本概念および基本的理論を理解できるようになる。 2. 看護組織の構造、管理、改革について理解できるようになる。 3. 人材育成、キャリア開発について理解できるようになる。 4. 組織において直面する倫理的課題、対策について理解できるようになる。 5. 医療における安全保障の意義について理解できるようになる。 6. 看護を取り巻く多様な状況から、看護管理の直面する課題とその背景を理解できるようになる。	◎	○								
	◆ 家族看護学	◇	1	4	前	授業の概要: 家族の形態や機能・「家族の健康」の概念など看護における家族の捉え方及びそれらの歴史的変化について学習する。更に、種々の健康課題の発生やライフイベントから家族成員はどんな影響を受け、ユニットとしての家族はどんな状態におかれるのかを学び、ユニットとしての家族をアセスメントする方法を学習する。 到達目標: 1. 家族を一つのユニットとして捉えてアセスメントするための基礎理論が理解できる。 2. 家族をアセスメントする方法を説明できる。	◎		○							

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
◇ 災害看護学		1	4	前	授業の概要:大害医療は、大規模災害(地震、火災、津波)等により、対応する側の医療能力を上回るほど多数の医療対象者が発生した時に行われる医療である。災害の及ぼす生命や健康生活への被害を最小限にとどめるために、災害現場での看護活動と災害後の中長期にわたる被災者の生活や健康問題への支援、心のケアについて理解できる。災害現場においてのトリアージについて演習を通じて理解を深めていく。 また、認定看護師・DMATとしての実務経験のある外部講師を招き、臨床現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。 到達目標:1. 災害の種類、健康被害について説明できる。 2. 災害医療の特徴について説明できる。 3. 災害看護の役割について説明できる。 4. 災害時の備え必要性について説明できる。	◎	○							
医療安全		1	4	前	授業の概要:医療安全の基本的な考え方を理解し、看護専門職としての責務と役割、医療現場における危険の予知と回避、患者の安全対策、事故防止等について理解を深める。また、看護の質と医療安全の関連について考える。 到達目標:1. 医療安全を学ぶことの重要性を理解できる。2. 医療安全に関する基礎的知識、医療安全に対する考え方を理解できる。3. 医療事故のメカニズムとその対策について理解できる。4. 医療安全のマネジメントについて理解できる。5. 看護の質と医療安全の関連について考察できる。6. 医療専門職者として、主体的に医療安全に取り組む姿勢を培うことができる。	◎	○							
救急看護学		1	4	前	授業の概要:救命救急における看護の役割を理解し、適切な援助が実践できるための基本的な知識・技術を学ぶ。 具体的には、救急患者の主要病態と救急処置を基盤に、生命の危機的状況にある人の看護について学ぶ。 到達目標: 1. 救命救急の概念と救急医療システムが理解できる。 2. 救命救急で遭遇する事多い疾患・外傷などの病態について理解できる。 3. 生命の危機的状況にある人のアセスメントを述べるができる。 4. 生命の危機的状況にある人の対象の特徴と看護について考えることができる。	◎		◎						
◆ 国際看護学 ◇		1	4	前	授業の概要:グローバル社会が進む中、人間の生命や尊厳、健康においてもその影響を受けている。健康関連課題に対し、看護職がどのようにかかわることができるのか考察する。日本人・外国人を問わずあらゆる国で生活する人間が遭遇している健康問題について視野を広め考察する。 到達目標: 1. 世界に関心を持ち国際的問題に興味を持つことができる。 2. 国際看護を国内・国外の看護活動として捉えることができる。 3. 国際看護活動の支援を必要とする対象を理解できる。 4. 多文化を理解し、その看護活動を理解できる。 5. 国際協力における看護職の役割を理解できる。	◎	○	○						
看護生涯教育		1	4	前	授業の概要:看護教育の歴史や制度を学び、現状と課題について考察する。看護学教育の特徴を理解して、看護職者としての教育的視点を養うと共に、進路選択に必要な条件や自分自身の方向性を考え、将来のキャリアアップに向けた目標設定をイメージする機会とする。 到達目標: 1. 学生が看護教育の歴史と制度が理解できるようになる。 2. 学生が大学における看護教育の在り方が理解できるようになる。 3. 学生が進路選択における新人教育の内容が理解できるようになる。 4. 学生が自らのキャリア発達に向けた看護生涯教育や自己評価の意義と方法が理解できるようになる。	◎		○		○				
◆ 生命倫理 ◇		1	4	前	授業の概要:生命倫理という学問の歴史的背景について学び、なぜ、生命倫理について考える必要があるのか、また事例を通していのちにかかわる人間の倫理的側面について深く考察する。これを通して、人権について、さらにいのちについて探求する。 到達目標: 1. 生命倫理という学問の歴史的背景を理解できる。 2. いのちをめぐる問題についての具体事例を通して、そこにかかわる人間の行為の倫理的側面について考えることができる。 3. いのちの根底にある人権について考えることができる。 4. いのちについて自己の考えを述べるができる。	◎		◎						
◆ 基礎ゼミナールⅢ(看護専門職の理解) ◇		1	2	前	授業の概要:看護専門職について理解した上で、日々の学習の意味について理解し、看護専門職に必要な知識を理解する。グループワークを通じて自律的学習習慣を獲得する。 到達目標: ①看護専門職について、日々の学習の重要性を理解する。 ②看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基本的な知識を習得する。 ③看護技術に関する基本的な知識を習得する。 ④主体的・能動的な学習を行うことができる。	◎		○						
◆ 基礎ゼミナールⅣ(看護研究の基礎) ◇		1	2	後	授業の概要:グループワークを通じて主体的・能動的な学習態度を培う。 文献検索、文献精読、文献要約の発表を行うことで、看護研究の方法を理解する。 到達目標: ①研究過程における基本事項(倫理的配慮など)を理解する ②看護分野で関心のある研究テーマに関連した文献を系統的に検索することができる。 ③主体的・能動的な学習を行うことができる。 ④文献を精読し、研究論文の基本的構成に照らして文献を要約することができる。	◎		○						

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
	◆ ◇ 看護研究 I	1	3	前	授業の概要: 研究テーマを選定し、そのテーマに沿った文献の検索方法を学び、先行文献の読み込みとクリティークを通して、研究のポイントを絞り込む。そして、その研究テーマの背景、研究目的、研究対象者、研究方法、分析方法等を決定し、研究計画書の作成をする。 到達目標: 文献検索と論文クリティークを通し、研究テーマを決定し、研究計画書の作成ができる。	◎		○						
	◆ ◇ 看護研究 II	1	4	前	授業の概要: 看護研究 I で学習したことを基礎に、看護研究の方法(研究計画から論文作成ならびに研究成果発表までの一連の過程)を実践的に学ぶ。 到達目標: 看護研究 II では、研究結果を基に論理的な考察を加え、結論に導く過程を学んで身につけることができ、研究のまとめとしての発表と論文が完成できる。	◎		○					○	
基礎看護学	◆ 基礎看護学実習 I	1	2	前	授業の概要: 看護師とともに行動することにより、環境、コミュニケーション、日常生活援助について体験的に学ぶ。また、地域の病院の特性や役割について考える。 到達目標: 1. 入院患者の生活環境を知る。 2. 患者とのコミュニケーションを通して対象の理解を深めることができる。 3. 患者への日常生活援助を見学・介助し、エビデンスのあるケアの重要性を理解できる。 4. 地域の病院における看護職の役割を理解できる。	◎								
	◆ 基礎看護学実習 II	2	2	後	授業の概要: 患者を受け持ち、指導者とともに看護を実施する。看護過程の展開においては、問題解決思考に基づき、情報の収集・アセスメント・関連図・看護目標と計画立案、実施と評価のプロセスを学ぶ。適宜、カンファレンスを開き、各々の学びを共有し看護内容を深める。 到達目標: 1. 看護過程の展開を通して、患者の個性を考慮した看護が立案・実践できる。 2. 患者と効果的なコミュニケーションが図れ、良い人間関係が形成できる。 3. 看護職としての自己を見つめることができる。	◎	○	○						
地域・在宅看護学	◆ 在宅看護学実習	2	3	後	授業の概要: 訪問看護ステーション等を実習施設とし、看護師と同行訪問を行い疾病や障害を持ちながら、地域において生活している人とその家族への看護の実践について学ぶ。学生は、在宅で生活する人とその家族への関わりを通して、その人の生活と人生を幅広く理解する。また、地域におけるケアシステムを把握し、保健・医療・福祉サービスの可能性を有効に活用し、自立した生活支援方法を探究する。 到達目標: 1. 対象者とその家族が抱えているニーズを理解し、必要な支援について考えることができる。 2. 在宅ケアシステムを理解し、在宅看護における看護師の役割について考えることができる。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
	◆ 地域包括ケア実習 I	1	2	前	授業の概要: 高梁市内に居住する高齢者から協力者を募集し、看護学生の2年生・4年生がチームとなり高齢者宅への家庭訪問を行い、対象者のよりよい生活や健康を実現する方策について考える。また、チームで実習することにより、学年を超えた支え合いやコミュニケーション力について学ぶ。 到達目標: 1. 協力者や家族とコミュニケーションをとり、生活者の視点で健康や生活へのアセスメントができる。 2. チームメンバーと情報共有を行い、メンバー間で協力することができる。			○	○	◎	○			
	◆ 地域包括ケア実習 II	1	4	前	授業の概要: 高梁市内に居住する高齢者から協力者を募集し、看護学生の2年生・4年生がチームとなり高齢者宅への家庭訪問を行い、対象者のよりよい生活や健康を実現する方策について考え実施する。また、チームで実習することにより、学年を超えた支え合いやコミュニケーション力について学ぶ。 到達目標: 1. 協力者や家族とコミュニケーションをとり、生活者の視点で健康や生活へのアセスメントができる。 2. アセスメントにより考えられた必要な援助を実施する。 3. チームのリーダーとしてメンバーと協力し、継続した援助を実践する。			○	◎	◎	○	○		
	◆ 成人・老年看護学実習 I (周手術期)	3	3	後	授業の概要: 成人・老年期にある患者を総合的に理解し、健康レベルに応じた看護実践を通して看護過程を展開するための知識・技術・態度を修得することを目的とする。 到達目標: 1. 成人・老年期にある対象の特徴を理解し、健康レベルに応じた個別性のある看護過程の展開ができる。 2. 成人・老年期にある対象を通して保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解できる。 3. 実習を通して自己を見つめ、専門職者としての倫理観・看護観を養う。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○

授業科目		◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8			
成人・老年看護学	◆ 成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期)		3	3	後	<p>授業の概要: 回復期・慢性期にある患者とその家族に対して、地域での生活者としての視点を大切に看護展開とする。患者と家族に対して病の受容過程、生活様式の変容と獲得などへのかかわりを通して対象理解を深め、必要な看護を考え実践する。この過程で予防活動能力、臨床判断能力、多職種と協働する能力、家族・地域をみる能力を養う。</p> <p>到達目標: 1) 成人期・老年期にある対象の特徴を理解し、健康レベルに応じた個別性のある看護過程の展開ができる。 2) 成人期・老年期にある対象を通して保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解できる。 3) 実習を通して自己を見つめ、専門職者としての倫理観・看護観を養う。</p>	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○		
	◆ 成人・老年看護学実習Ⅲ (施設)		2	3	後	<p>授業の概要: 高齢者施設の利用者のケアを通して、実習目標を達成するために、臨床指導者、ケアスタッフ、教員の指導助言のもとに実習を進める。</p> <p>到達目標: 1. 加齢に伴って起こる変化が日常生活にどのような影響を及ぼしているか理解できる。 2. 高齢者の生活の場と日常生活に必要な援助を理解できる。 3. 多職種との連携・協働のあり方や保健・医療・福祉の連携の現状を理解し、看護の役割を考えることができる。 4. 高齢者を援助するさまざまな場面の中で、学生自身の感情や態度を考察しながら、高齢者とのコミュニケーションのとり方を学び、自己の課題を明確にできる。 5. 看護実践をとらえて自己の高齢者観を養うことができる。</p>	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
臨地実習	◆ 小児看護学実習		2	3	後	<p>授業の概要: 入院や外来、保育施設における子どもや家族との関わりを通して、小児各期の身体的・精神的・社会的な特徴や家族の思いを理解し、対象に応じた看護・養育について探求、実践すると共に、小児看護の役割・態度を学ぶ。実習においては、臨床指導者、保育士、教員の指導・助言のもと、目標に向かって展開していく。</p> <p>到達目標: 1. 入院や外来、保育施設など、子どもが生活する場(環境)とその影響について理解する。 2. 子ども身体的・精神的・社会的な特徴と健康段階を関連して捉え、その子に応じた適切な看護について理解できる。 3. 子どもにとっての遊びの意義を理解し、適切な援助ができる。 4. 子どもや家族のおかれた状況を理解し、子どもや家族の思いに寄り添った関わりができる。 5. 看護チームの一員としての責任を自覚し、保健・医療・福祉チームにおける小児看護の役割について理解できる。</p>	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	◆ 母性看護学実習		2	3	後	<p>授業の概要: 周産期の母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を総合的に理解し、対象に応じた看護と保健指導を実践できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>到達目標: 1. 妊産褥婦および新生児の特徴および対象に応じた看護について理解し、実践できる。 2. 生命の尊さについて考え自己の母性観・父性観を深めることができる。 3. 保健・医療チームの一員として自覚をもち、責任ある行動をとることができる。 4. 看護者としての姿勢を身につけ、倫理観を養うことができる。</p>	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	◆ 精神看護学実習		2	3	後	<p>授業の概要: 精神に障害のある対象者を受け持ち、看護過程を通し、精神症状が日常生活に及ぼす影響について理解を深め、援助の必要性とその方法を学ぶ。さらに、心の障害をもつ人を支える援助学習として、看護者の治療的な自己活用のあり方についても理解を深める。</p> <p>到達目標: 1. 精神に障害をもつ人とのかかわりを通して、生物・心理・社会的に幅広く心を病む人への理解ができる。 2. 精神に障害をもつ人とのかかわりを振り返りながら、患者-看護者関係について考えることができる。 3. 精神に障害をもつ人の日常生活の自立に向けての援助ができる。 4. 精神に障害をもつ人が望む、その人らしい自立した地域生活を支えるために、必要となる援助と課題について考えることができる。 5. 実施した看護を的確に言語化し、論理的・体系的に記述することができる。 授業の概要: 到達目標: </p>	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	◆ 統合看護実習Ⅰ (看護管理)		1	4	後	<p>授業の概要: 病棟における看護師長・リーダーの業務を見学し、管理の実際を体験する。受け持ち患者の全体像を理解し、指導看護師とともに多職種カンファレンスに参加し、継続看護、チーム医療の実際を体験する。</p> <p>到達目標: 看護管理について理解できるようになる。 1. 看護ケア・看護サービスのマネジメントを理解できるようになる。 2. 看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップを理解できるようになる。 3. 複数の患者を受け持ち、優先順位・時間管理・安全を考慮した援助について理解できるようになる。 4. マネジメントに必要な知識と技術を理解できるようになる。</p>	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
看護																	

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
の統合と実践	◆ 統合看護実習Ⅱ(地域連携)	1	4	後	<p>授業の概要: 地域連携室のソーシャルワーカーや病棟看護師長、看護部長等による講義や地域連携 関連施設の見学、患者・家族との関わりや病院内外関係機関、関係職種による支援・連携状況の見学等を行う。実習を通じて、退院後、地域で生活する人々の健康の保持・増進のために必要な ニーズに応じた多職種の連携のあり方を学ぶ。実習終了後は、グループディスカッションや実習報告会を行い、地域連携実習を通して 看護師として勤務する上での必要な自己の態度と課題をまとめ発表する。</p> <p>到達目標: 地域包括医療について学ぶことを通して、患者・家族の視点にたった地域連携の主体的な実践能力を養うことができる。</p> <p>①人口の高齢化に伴う2025年問題をふまえた医療・介護のあり方について理解できる。</p> <p>②地域連携室の機能と役割を理解できる。</p> <p>③地域包括医療チームのメンバーシップを理解できる。</p> <p>④退院後の生活を見据えた患者・家族の視点にたった援助の理解ができる。</p>			◎	◎	○	○	◎	○		
	◇ 公衆衛生看護学概論	1	2	前	<p>授業の概要:ヘルスプロモーションを基本概念とし、健康づくりを視点とした個人・家族・集団・地域をエンパワメントする地区活動の展開・展開法・役割について学ぶ。行政に所属する保健師が1次予防を中心に行う公衆衛生看護の概要を理解する。</p> <p>到達目標: 公衆衛生看護活動を担う保健師の専門性に基づく役割と機能を学ぶ</p>	○				◎		○			
保健師科目	◇ 公衆衛生看護学Ⅰ(方法論)	2	3	後	<p>授業の概要: 個人・家族の健康及び生活実態や疫学データ、保健統計から地域をアセスメントし、顕在化・潜在化した健康課題を明確にする方法を学ぶ。人々の健康行動の特性及び効果的な介入方法と技術を学ぶ。集団における教育方法や集団力学等を学ぶ。</p> <p>到達目標: Ⅰ. 地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防・発生・回復、改善の過程のアセスメント及び 健康課題の明確化について基本的な理解ができる。</p> <p>Ⅱ. 「個人、家族」が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な支援技術の選択及び支援方法について基本的な理解ができる。</p> <p>Ⅲ. 地域アセスメント<地域診断>に基づき地域の健康課題を明確化する方法についての基本的な理解ができる。</p> <p>Ⅳ. 地区活動および地域組織の育成・支援に関わる活動の展開方法について基本的な理解ができる。</p> <p>Ⅴ. 保健医療福祉における施策化と事業の計画・実施・評価の方法について基本的な理解ができる。</p> <p>Ⅵ. 保健医療福祉における地域ケアシステムの構築について基本的な理解ができる。</p>	◎	○						○		
	◇ 公衆衛生看護学Ⅱ(対象別看護活動)	2	4	前	<p>授業の概要:地域で生活するすべての健康レベルの人々の健康問題の解決のため、法的根拠や制度と理論の理解を深め、健康課題に応じた公衆衛生看護支援の特性・技術・手法を習得するために講義とグループワーク演習を実施する。</p> <p>到達目標: 公衆衛生看護活動の基盤となる法的根拠や制度と活動を展開する理論を理解し、健康問題を解決する公衆衛生看護の基礎的技術や手法や支援の理解ができる。</p>		○					◎		○	
	◇ 産業衛生学	2	3	前	<p>授業の概要:産業保健の基本として、産業保健の目的、保健師の役割・機能。産業保健の動向、産業保健の制度と仕組みを学び、産業保健における対象の健康課題への対策と支援として、メンタルヘルス・職業性疾患など主な健康課題への対策と支援、産業保健活動の展開、をまた実例を通して保健師・第一種衛生管理者の活動の実際を学ぶ。</p> <p>到達目標: 産業保健の制度と仕組み、及び対象の健康課題の把握と適切な支援方法について基本的な理解を得る。</p>							◎	○	○	
	◇ 公衆衛生看護管理論	2	4	前	<p>授業の概要:行政保健師に求められる公衆衛生看護管理-地域の健康課題のアセスメントを行い、その対策としての事業企画の立案の実際を学ぶ</p> <p>到達目標: 行政に所属する保健師の役割を認識し、公衆衛生看護管理のうち地域を管理する機能を中心に理解、実施できる。</p>	○	◎						○		
	◇ 健康危機管理論	1	3	前	<p>授業の概要:大規模自然災害時の対応や感染症集団発生の事例を通して課題基本的理解を得るとともに演習を通して対応の基本的理解を得る。</p> <p>到達目標: 健康危機管理の理念と目的、対象と方法、災害時サイクル各期の保健活動、感染症の集団発生時の保健活動について基本的な理解を得る。</p>				○			◎		○	
	◇ 保健医療福祉行政論(政策演習)	2	4	前	<p>授業の概要:公衆衛生看護を担う保健・医療・福祉・企画分野での広範囲な行政部署において、専門性に立脚した行政手腕を発揮するための保健医療福祉行政の仕組み・財政・社会保障制度・公衆衛生全般にわたる法律を学習し、政策化に向けた一連を演習する</p> <p>到達目標: 保健福祉行政における関係法規を理解し、保健師活動実践が法に則って行える。</p>	◎	○	○							

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
◇ 公衆衛生看護学実習 I		4	4	前	授業の概要:教科で学んだ理論を、地域において公衆衛生看護活動としての実践的活動を通し、個人/家族と集団/地域に主体的・創造的に働きかける学習とする。 到達目標: 1. 保健所・市町村における公衆衛生看護活動の現状について理解する 2. 公衆衛生看護活動の実際について学ぶ 3. 地域の健康課題をテーマとし地域や対象者の特性を踏まえた健康教育を体験する。地域ケアシステムの構築とネットワーク化の実際について学ぶ 4. 地区組織活動の実態を把握し、地域住民の主体的参加を促す方法を学ぶ 5. 自己研鑽や研究の重要性を理解し、研究的態度を養う			◎	○			○		
◇ 公衆衛生看護学実習 II		1	4	前	授業の概要:地域における健康課題の顕在化とその課題の解決を目指す一連の公衆衛生看護活動の展開過程を実践的に学ぶ 到達目標:地域住民の生活から健康問題を把握し、公衆衛生看護活動を計画・実施・評価・組織化・施策化するための知識と基本的な技術を習得する	○			◎		○			
看護教育法 I		2	3	前	授業の概要:看護教育制度及び学習指導要領を基に、高等学校看護科における教科目標および科目編成、看護科の各科目の目標と内容及びその取扱いについて解説する。 到達目標:看護教育制度及び高等学校看護科教育の目標、教育課程について理解し、説明できる。生徒の実態や学力に応じた学習指導案の作成ができる。授業を評価する方法について理解し、模擬授業を実践し客観的に評価し改善ができる。	◎		○				○	○	
看護教育法 II		2	4	前	授業の概要:看護教員にとって授業設計に基づく授業実践は重要であり、看護教育法 II では看護教育法 I で学習したことを踏まえて、看護実践に必要な知識と技術の習得に向けた講義と実習の一体的な指導に関わる授業設計ができる能力を養うことを意図する。 到達目標:高等学校看護科の教育目標および教育課程を踏まえた効果的な授業展開と評価についての演習を実施することが出来る。模擬授業を実践し、客観的に評価し授業設計を改善することが出来る。	◎		○				○	○	
教育原論		2	1	後	授業の概要:歴史的な事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会(共同体)の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解する。 到達目標:教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に付ける	◎		○				○		
教職論		2	1	前	授業の概要:教師、教職、人を教えるという行為など、教育という営みをめぐる哲学的、原理的な課題からはじまり、学校教育、教員の使命と役割、学校における教員のさまざまな活動について理解する。 到達目標:教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。	◎		○						
教育行政学		2	2	前	授業の概要:教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。 到達目標:現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。	◎					○	○		
教育心理学		2	2	前	授業の概要:教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。教育心理学の理論と方法を概観した後、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。続いて児童生徒の友人関係、心の問題を、学習活動や学校生活との関わりで解説する。 到達目標:教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける。	◎						○	○	
特別支援教育		1	2	前	授業の概要:様々な障害のある幼児・児童ひとりひとりのニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の理解と指導内容・方法等の基本的事項について解説する。 到達目標:特別支援教育の理念とシステムを理解し、特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を知る。さらに特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒への適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につける。	◎						○	○	
教育課程論		1	2	前	授業の概要:教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する 到達目標:教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する。	◎	○				○			

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
道徳教育の理論と方法		2	3	前	授業の概要:道徳性の発達理論、教育理論、道徳教育の役割や意義をテキストを基に学修し、理解する。また、実践力の育成という意味から、学生の参加型授業を取り入れ、講義を行う。 到達目標 1. 基礎的知識として、道徳教育の歴史、発達理論、役割と意義を理解する。 2. 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3. 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4. 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 ○授業では、各自のテーマを決め、パワーポイント資料を作成して発表、グループワーク、模擬授業等に取り組む			◎	○		△	△	◎
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		2	2	後	授業の概要:学習指導要領における特別活動の目標、主な内容、教育課程における位置づけ。学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質。学級活動の指導案を作成し、模擬授業(別途実施)の実践と評価を学ぶ。 到達目標 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、特徴などについて理解する。 2. 特別活動の内容を理解し、年間計画、学習指導案を作成することができる。 3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。 4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。 ○授業では、グループワークを取入れたり、単元のテーマを決め、単元計画、学習指導案を作成したりする。			○	△		◎	△	◎
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)		2	3	前	授業の概要:後の学校教育に求められる主体的・対話的で深い学びを考え、そのための具体的な手法を学ぶ。授業にかかわる様々な要素について学習するが、特にアクティブ・ラーニングを中心に上げ、その背景にある社会観・教育観を検討する。 到達目標:教育方法に関する基礎的理論及び実践の理解し授業を構成する諸要素についての理解する。子どもの学習の観点から授業デザインをする方法の理解する。	◎					○	○	
生徒・進路指導論		2	3	前	授業の概要:生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。 到達目標:生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。			△	◎		○	△	
教育相談の基礎		2	1	後	授業の概要:学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。 到達目標:教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する。不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する。チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する	◎		○			○		
教育実習指導		1	3	前	授業の概要:教育実習に臨むための基本的な知識と態度を学ぶ。看護教育の歴史的背景から現状と課題を学び、看護教育全体の中での教育的意義を確認させ、看護教員としての自覚と責任の意識化を図る。 到達目標:高等学校(看護)の教育実習に必要な学校教育における基本的な事項と態度を学ぶ。看護科の高等学校生徒の発達段階に応じた学習指導ができるようになることを目指す。	◎						○	
教育実習		2	4	前	授業の概要:看護科のある高等学校を実習校とし、教育の実践について直接的な体験を通して、理論と実践の統合をめざしていく。 到達目標:看護教育の内容、方法に関する実践的学習をテーマとし、実習を通して大学で学んだ教育理論を教育現場で実践し、教育職員としての役割や責任について学ぶ。	◎		○			○	○	
教職実践演習(高校)		2	4	後	授業の概要:教員として必要な以下の資質能力について実践活動を交えながら学習・確認する。 到達目標:教員として必要な能力として有機的な統合・形成に繋がっているかについて、これまでの学習を踏まえて確認する。また、学校現場の教育課題や課題解決のために必要な教育活動について講義や演習で学び、教員として必要な資質能力を身につけることができる。			◎			○	○	
◇ 学校保健学		2	2	後	学校保健は学校において児童生徒の健康の保持増進するための活動として、保健教育と保健管理、及び組織活動について学修する。学校保健安全法等に定められる学校保健の概略と養護教諭の役割、及び児童生徒の健康課題と心身の健康の保持増進について保健教育の視点から理解を深める。 到達目標:学校保健の概略を理解するとともに、学校保健を実践する上で必要となる各論的知識を学習する。	◎		○					
養護学概論		2	3	前	授業の概要:「養護」の意味について考え、学校教育における養護教諭の職務と役割を理解する。養護教諭としての基礎的知識と技術を学び、その基礎となる価値観を醸成する。演習やグループ学習をとおして実践への展開を考える。 到達目標:養護教諭の職務と保健室の機能、役割を理解し、児童生徒の健康課題の解決方法と技術について学習する。	◎		○					○

授業科目	◆は必修 ◇は保健師必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
健康相談活動論		2	4	前	授業の概要:健康相談活動の概念と他職種の相談活動との違いを理解し、法的根拠に基づいた相談活動の実際と、基本的知識・技術・態度について学ぶ。 到達目標:養護教諭の職務の一つである健康相談活動の理論と実践について講義と演習を行い、学校における健康相談活動の理念と実践を学ぶ。	◎					○	○		
養護実習指導		1	4	前	授業の概要:養護実習の事前事後指導を行う。養護実習の目的、目標、内容について明確に意識して臨む。救急処置や健康診断等の養護教諭の職務の基本的事項についてグループワークや演習を中心に理解を深める。保健指導案、保健だよりを各自で作成して発表し、実習準備を行う。 到達目標:養護実習を行う上での基本的知識・技術・態度を養い、学校教育全体の中の養護活動について理解し、養護教諭として求められる資質能力の修得する。	◎			○		○			
養護実習		4	4	後	授業の概要:教育現場で直接的な体験を通して、教員として養護教諭としての職務と役割について実践的に学修する。学校教育活動をはじめ、児童生徒の実態、養護活動を見学し、指導を受け実践する。保健室経営、救急処置、保健指導等の実際を学び実習する。 到達目標:養護教諭免許取得のための教科・科目で学んだ教育理論を教育現場で実践し、養護教諭の職務の理解を深め、教育職員としての自覚と責任について学ぶ。	◎		○			○	○		
教職実践演習(養護教諭)		2	4	後	授業の概要:養護教諭一種免許取得の最終として、養護教諭として必要な資質について学修、確認する。 到達目標:養護教諭として必要な資質と能力として有機的に統合され形成することを目標とする。また、児童生徒の健康課題解決のために必要な養護教諭の教育活動について学び、教員として養護教諭としての必要な資質と能力を身につけることができる。			◎				○	○	